

小学校の廃校舎を活用した、佐渡市西三川の酒蔵「学校蔵」で、通信機器大手「沖電気工業」(東京都)の社員が仕込んだ純米大吟醸酒「挑」の進取の精神が完成した。同社の顧客やオンラインフェアの参加者に配って佐渡をPRするという。

沖電気社員が仕込み

学校蔵は、同市真野新町の尾畑酒造が仕込み体験などの酒造りを通して、日本酒や佐渡のファンを増



完成した日本酒を味わう宮沢常務執行役員(右) 10月30日、佐渡市西三川の学校蔵で

学校蔵産 大吟醸完成 佐渡

やそうと取り組む活動の拠点。今春、地域活性化を目的に清酒の少量製造を認める「清酒特区」の適用全国第1号となった。

学校蔵の取り組みを支援しようと、沖電気工業の社員9人が6月、尾畑酒造の杜氏の指導を受けながら、交代で2〜7日間、タンク1本分の仕込みに挑戦。2190本(1本720ミリ・リットル)分が完成し、10月30日にお披露目された。佐渡産の酒造好適米「越淡麗」を使用し、軽快でありながら深いこくがある味わいに仕上がった。

ラベルには、常に新しいものづくりに挑戦する沖電気工業の姿勢を表す「挑」と企業理念「進取の精神」、トキのイラストをあしらった。同社のラベルプリンターで印刷した。宮沢常務執行役員は、佐渡を感じることが「できる酒」と話し、尾畑酒造の尾畑留美子専務は「佐渡の自然の循環や農業の仕組みを(社員に)知ってもらおう機会にもなった」と話した。



純米大吟醸酒「挑」の進取の精神